

鶏肉情勢

令和4年5月12日 更新

全農チキンフーズ㈱

| 項目 | 内容 |
|----|--|
| 供給 | <p>1. 国内</p> <p>(1) 生産・処理動向調査((一社)日本食鳥協会令和4年4月末実施)によると3月の推計実績は処理羽数65,348千羽(前年比101.6%)・処理重量196.7千t(同101.4%)となった。前月時点の計画値より処理羽数は0.6%下方修正し、処理重量は0.1%下方修正となっている。大腸菌症の発生などにより処理羽数は下方修正されたと考えられるが、増体の向上で処理重量の下方修正が小さかったのではないだろうか。高病原性鳥インフルエンザの影響で育成日数が伸長した生鳥がいることも考えられるが特に聞かれぬ。</p> <p>(2) 4月の処理羽数は前年を上回る見通しだが、処理重量が前年を下回る見通しとなっている。地区別で見ると南九州産地が前年を大幅に下回っており、大腸菌症による育成不良と飼料の使用を抑えるために育成日数を減らしたことが考えられる。5月についても処理羽数が前年を上回っているものの、処理重量は前年を下回る見通しとなっている。また、新型コロナによる工場稼働への影響は続いており、海外技能実習生が集められないことから要員不足となっている処理工場も散見される。加工品(手羽中・三ツ割・砂肝スライス等)や副産品(小肉・ハラミ等)の調整が今後も見込まれる。</p> |
| | <p>2. 輸入</p> <p>(1) 財務省4月27日公表の貿易統計によると令和4年3月の鶏肉(原料肉)の輸入量は前月から4.5千t減の45.1千tで、国別ではブラジルが▲4.8千t、タイが0.4千tとなっている。前年同月の実績に対しては10.5千t減となった。ブラジル産のオファーが高騰していることにより輸入量を調整したことが原因だと考えられる。農業畜産振興協議会(ALIC)による今後の見通しでは、4月が39.2千t(前年比78.2%)、5月が47.7千t(前年比103.2%)となっている。4月は3月と同じくブラジル産のオファーが高騰していたことで40千tを割り込み、5月の輸入量が増加しているのは買い付け時における国内輸入品の出回りが好調だったこともあり、ブラジル産の輸入量が増加しているためようだ。今後も市況を見ながら輸入量が変動することが予想されるものの、飼料・人件費・物流費等、世界的なコストの高騰、タイにおけるASF(アフリカ豚熱)感染拡大などから輸入価格は高止まりしている。この影響により、外食・中食向けの一部が国産原料へ切り替えが起きているようだ。</p> <p>(2) 鶏肉調整品の輸入量は前月から9.0千t増の47.8千tで、国別では中国が+5.3千t、タイが+3.7千tとなった。前年同月の実績に対しては3.8千t増となった。昨年11月より前年比を上回り続けており、輸出国における製造体制もある程度水準まで回復していると考える。外食・中食・総菜向けの引き合いが強くなることが予想されるが、世界的なコスト増もあり価格が高騰している。</p> <p>(3) 財務省が4月27日に公表した貿易統計によると3月の鶏肉(解体品)の価格は、前年同月より40%前後上昇し、依然として高騰が続いている。ブラジルのオファー高騰や、ロシアのウクライナ侵攻に伴う黒海封鎖、為替相場の円安による影響が大きい。今後は輸入鶏肉の出回りと国産鶏肉の代替使用がどの程度進むかによって輸入鶏肉の価格は変動することが予想されるが、暫く高値は続くのではないだろうか。</p> |
| | <p>3. 業務・加工筋</p> <p>(1) 日本ハム・ソーセージ工業協同組合調べによると令和4年3月度の鶏肉加工品仕向肉量は、前年比102.5%の4.7千tとなった。うち国内品は同103.9%の3.8千tと前年を上回り、輸入品については同97.0%の0.9千tと前年を下回った。</p> |

| 実績 | | | | | | | | | | | |
|---|-----------|--------|--------|-------------|--------|--------|------------------|---------|-------|-----------|------|
| 生産状況 | | | | 単位:千羽、千トン、% | | | | | | | |
| | R4年3月推計実績 | | | R4年4月計画 | | | R4年5月計画 | | | R4年6月計画 | |
| | 数量 | 前年比 | | 数量 | 前年比 | 数量 | 前年比 | 数量 | 前年比 | | |
| 入雛羽数 | 63,886 | 98.7% | 65,028 | 101.1% | 62,585 | 100.5% | 61,362 | 101.6% | | | |
| 処理羽数 | 65,348 | 101.6% | 62,576 | 100.9% | 61,276 | 100.6% | 60,740 | 101.0% | | | |
| 処理重量 | 196.7 | 101.4% | 187.4 | 99.7% | 183.6 | 98.7% | 180.9 | 99.1% | | | |
| ※参考資料:㈱全国食鳥新聞社発行「PMN」 | | | | | | | | | | | |
| 輸入動向 | | | | 単位:千トン、% | | | | | | | |
| | 鶏肉 | | | 調製品 | | | 合計 | | 比率 | | |
| 履歴 | 当年 | 前年 | 前年比 | 当年 | 前年 | 前年比 | 当年 | 前年 | 前年比 | | |
| R3年10月 | 51.2 | 47.9 | 106.9 | 35.2 | 39.2 | 89.8 | 86.4 | 87.1 | 99.2 | 59.3 40.7 | |
| R3年11月 | 57.8 | 45.3 | 127.5 | 43.8 | 42.7 | 102.4 | 101.5 | 88.0 | 115.3 | 56.9 43.1 | |
| R3年12月 | 60.7 | 42.7 | 142.1 | 48.2 | 44.1 | 109.2 | 108.9 | 86.8 | 125.4 | 55.7 44.3 | |
| R3年累計 | 595.8 | 535.0 | 111.4 | 481.0 | 469.5 | 102.5 | 1,076.8 | 1,004.5 | 107.2 | 55.3 44.7 | |
| R4年1月 | 53.8 | 48.9 | 109.9 | 43.2 | 33.7 | 128.3 | 97.0 | 82.6 | 117.4 | 55.5 44.5 | |
| R4年2月 | 49.6 | 45.5 | 109.9 | 38.8 | 34.2 | 113.3 | 88.4 | 79.8 | 110.8 | 56.1 43.9 | |
| R4年3月 | 45.1 | 55.6 | 81.1 | 47.8 | 43.9 | 108.7 | 92.9 | 99.5 | 93.3 | 48.6 51.4 | |
| ※参考資料:財務省「貿易統計」、(独)農業畜産振興機構「鶏肉需給表」 | | | | | | | | | | | |
| 鶏肉の消費動向 | | | | 単位:グラム、円、% | | | 相場(年別・暦年) | | | | 単位:円 |
| 履歴 | 数量 | | | 金額 | | | モモ肉 | | ムネ肉 | | 計 |
| | 当年 | 前年 | 前年比 | 当年 | 前年 | 前年比 | | | | | |
| R3年10月 | 1,559 | 1,538 | 101.4 | 1,424 | 1,424 | 100.0 | H26年 | 626 | 294 | 920 | |
| R3年11月 | 1,536 | 1,498 | 102.5 | 1,429 | 1,425 | 100.3 | H27年 | 639 | 336 | 975 | |
| R3年12月 | 1,695 | 1,839 | 92.2 | 1,702 | 1,763 | 96.5 | H28年 | 621 | 255 | 876 | |
| R3年平均 | 1,526 | 1,565 | 97.5 | 1,410 | 1,440 | 97.9 | H29年 | 626 | 315 | 941 | |
| R4年1月 | 1,563 | 1,582 | 98.8 | 1,450 | 1,469 | 98.7 | H30年 | 595 | 282 | 877 | |
| R4年2月 | 1,483 | 1,428 | 103.9 | 1,404 | 1,359 | 103.3 | R元年 | 585 | 243 | 828 | |
| R4年3月 | 1,550 | 1,528 | 101.4 | 1,439 | 1,406 | 102.3 | R2年 | 614 | 269 | 883 | |
| ※参考資料:総務省統計局HP 家計調査報告(全国・二人以上の世帯1世帯あたり) | | | | | | | | | | | |
| 在庫状況(推定) | | | | 単位:千トン、% | | | | | | | |
| 履歴 | 国産 | | | 輸入品 | | | 合計 | | | | |
| | 当年 | 前年 | 前年比 | 当年 | 前年 | 前年比 | 当年 | 前年 | 前年比 | | |
| R3年10月 | 34.7 | 26.8 | 129.3 | 108.2 | 134.1 | 80.7 | 142.9 | 160.9 | 88.8 | | |
| R3年11月 | 33.6 | 26.4 | 127.0 | 114.7 | 131.3 | 87.4 | 148.2 | 157.7 | 94.0 | | |
| R3年12月 | 35.5 | 26.8 | 132.2 | 114.4 | 124.3 | 92.1 | 149.9 | 151.1 | 99.2 | | |
| R4年1月 | 35.1 | 26.5 | 132.4 | 123.2 | 129.5 | 95.1 | 158.3 | 156.0 | 101.5 | | |
| R4年2月 | 33.9 | 27.5 | 123.2 | 129.3 | 129.7 | 99.7 | 163.2 | 157.2 | 103.8 | | |
| R4年3月 | 32.5 | 28.8 | 112.9 | 125.2 | 135.0 | 92.7 | 157.7 | 163.8 | 96.2 | | |
| ※参考資料:(独)農業畜産振興機構「鶏肉需給表」 | | | | | | | | | | | |
| 相場(月別) | | | | 単位:円、% | | | | | | | |
| 品名 | モモ肉 | | | ムネ肉 | | | 正肉合計 | | | | |
| 履歴 | 当年 | 前年 | 前年比 | 当年 | 前年 | 前年比 | 当年 | 前年 | 前年比 | | |
| R4年1月 | 649 | 711 | 91.3 | 330 | 314 | 105.1 | 979 | 1,025 | 95.5 | | |
| R4年2月 | 646 | 701 | 92.2 | 323 | 305 | 105.9 | 969 | 1,006 | 96.3 | | |
| R4年3月 | 631 | 691 | 91.3 | 316 | 304 | 103.9 | 947 | 995 | 95.2 | | |
| R3年度平均 | 627 | 640 | 98.0 | 317 | 283 | 112.0 | 944 | 923 | 102.3 | | |
| R4年4月 | 622 | 678 | 91.7 | 315 | 305 | 103.3 | 937 | 983 | 95.3 | | |
| R4年5月 | (620) | 659 | 94.1 | (320) | 303 | 105.6 | (940) | 962 | 97.7 | ※()は見通し | |
| R4年6月 | (610) | 631 | 96.7 | (330) | 296 | 111.5 | (940) | 927 | 101.4 | ※()は見通し | |

| | | |
|----|--------------------|---|
| 在庫 | 1. 令和4年3月(2022年3月) | (1) (独)農業畜産振興機構の推計期末在庫では国産32.5千t(前年比112.9%・前月差▲1.4千t)、輸入品125.2千t(同92.7%・同▲4.1千t)と合計で157.7千t(同96.2%・同▲5.5千t)となった。 |
| | 2. 見通し | (1) (独)農業畜産振興機構が発表した鶏肉需給表(令和4年5月11日更新)では、3月の出回りは国産144.9千t(前年比103.8%・前月差+8.3千t)、輸入品49.2千t(同97.9%・同+5.7千t)と合計で194.1千t(同102.3%・同+14.0千t)となった。4月以降の国産在庫については、競合する輸入鶏肉の高騰等から消化が進んでいるようだ。輸入鶏肉の入荷量は前述の農業畜産振興協議会(ALIC)予測でもするように市況を見ながら調整されることが予想される。5月の輸入量が増加する見通しから一時的に在庫が増加する可能性はあるが、前述のブラジル産オファー価格の高騰、黒海封鎖などもあり今後の輸入品在庫は減少していくと予想する。 |
| 相場 | 1. 令和4年4月動向 | (1) 令和4年4月の月平均相場は、モモ肉622円/kg(前月差▲9円)・ムネ肉315円/kg(同▲1円)正肉合計で937円/2kgと前月差で10円下回り、前年差では46円下回った。モモ肉相場は月初619円、月末は625円との6円の上がり幅であり、昨年は月初684円、月末669円の15円の下がりがあった。昨年と比較すると相場が安価であるものの、これはコロナ禍による国内食需要が少し落ち着いてきたようだ。生産状況が前年と比較して処理重量が若干下がっていることも手伝い、月初から月末にかけて相場は上げ基調だったと予想する。ムネ肉相場は年末に凍結した在庫消化の動きが一部あったものの、加工向けの手当があることから特売を控えた産地・販売会社があったようだ。競合する輸入鶏肉の在庫水準が低いこともあり前月から1円の下げに留まった。 |
| | 2. 見通し | (1) 5月の生産量は、産地の増体悪化により若干減少する可能性がある。また、コロナ禍による工場稼働への影響も懸念される。一方需要面では、気象庁発表の「向こう1か月の天候の見通し(5月)」によると、5月の気温は全国的に平年よりも高いか平年並みの予測となっており、例年通り気温の上昇による食肉需要自体の減も考えられる。しかし、連休明けは節約志向が高まり、安価な鶏肉へ需要が集中する可能性がある。外食へ消費が傾くことが予想されるものの、外食で使用する輸入鶏肉の価格高騰から国産鶏肉へ一部シフトするのではないだろうか。以上から、モモ肉相場は4月より若干下げの月平均620円前後と予測する。ムネ肉相場は加工原料とする引き合いが依然として強く、競合する輸入鶏肉の高騰からやや上げの月平均320円と予測する。 |
| 相場 | 1. 令和4年4月動向 | (2) ゴールデンウィーク(4月29日(金)から5月8日(日))の販売状況は昨年と比較するとエリアにより多少の濃淡はあるが、都市部の量販店は旅行・帰省などにより集客数が前年を割れ、地方における販売状況は好調だったようだ。また、観光地における外食の集客も昨年と比較すると良くなったと聞かれる。今後の新型コロナの感染状況にもよるが、コロナ禍前の状況へ少し近づいていくことが予想されるため、外食および外食筋向け卸関係への販売量が増加していくと考える。また、輸入鶏肉の高騰により手当が難しいことから国産鶏肉へ一部シフトすることも考えられるため、国産相場への影響に注視したい。 |
| | 2. 見通し | (2) ゴールデンウィーク(4月29日(金)から5月8日(日))の販売状況は昨年と比較するとエリアにより多少の濃淡はあるが、都市部の量販店は旅行・帰省などにより集客数が前年を割れ、地方における販売状況は好調だったようだ。また、観光地における外食の集客も昨年と比較すると良くなったと聞かれる。今後の新型コロナの感染状況にもよるが、コロナ禍前の状況へ少し近づいていくことが予想されるため、外食および外食筋向け卸関係への販売量が増加していくと考える。また、輸入鶏肉の高騰により手当が難しいことから国産鶏肉へ一部シフトすることも考えられるため、国産相場への影響に注視したい。 |